

クローズアップ



グラバー園 動く歩道

竹内 健二
(Kenji Takeuchi)
三菱電機株式会社
九州支社 ビルシステム部

仲正 弘二
(Koji Nakasho)
三菱電機エンジニアリング株式会社
SE 事業部 関西支所

グラバー園内 旧グラバー住宅 外観

1. はじめに

遠くスコットランドから渡来したトーマス・ブレイク・グラバーが、ここ南山手の丘に住まいを建設したのは1863年のこと。1957年に、三菱重工業株式会社長崎造船所より、創業100周年祭の記念行事の一つとして、グラバー邸や庭園が長崎市へ寄贈されました。翌年、市営の観光施設として一般に公開され、グラバー邸が国の重要文化財となり、正式名称が「旧グラバー住宅」と定められました。その後、施設の充実が図られ、1974年、「グラバー園」と名称を改めオープンしました。ここには、グラバーたちの家族が暮らした当時の記憶が、長崎を愛し長崎に暮らした貿易商たちの邸宅とともに、形を変えることなく残されています。

園内には動く歩道が2台設置されていましたが、このたび、既存のものを撤去し、新しく設置されました。1号機は旧グラバー住宅の横、2号機は旧長崎地方裁判所長官舎の横に位置しています。2013年11月に1号機、2014年9月に2号機が完成しました。

2. 建物概要

所在地：長崎市南山手町8番1号
 建築主：長崎市
 設計：株式会社 ウェスコ岡山支社
 施工：(1号機) 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
 株式会社 倉元建設 (別途建築工事)
 (2号機) 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
 株式会社 池田建築工業 (別途建築工事)

敷地面積：29,397㎡

構造：RC (動く歩道ピット)

工期：2013年1月～2013年11月 (1号機)
 2013年12月～2014年9月 (2号機)

3. 昇降機設備

2台の動く歩道の仕様は、S1000形、傾斜角度12度で、1号機は54.818m (高低差約10m)、2号機は63.832m (高低差約12m) の全長があります。利用者がいないときは停止待機しており、乗降口に設けられた光電センサーが利用者を感知すると自動的に運転を開始する「自動運転機能」を備えています。また、20、25、30m/minの3段階に速度切替が可能であり、入園者の利用状況に合わせて速度を設定できるなど、必要な時に必要な搬送量で運行できる省エネルギー仕様となっています。

動く歩道には切妻屋根が架けられ、両側面はガラス窓となっています。周りの景色を楽しみながら坂道を移動できる動く歩道は、便利な足として多くの利用者に喜ばれています。

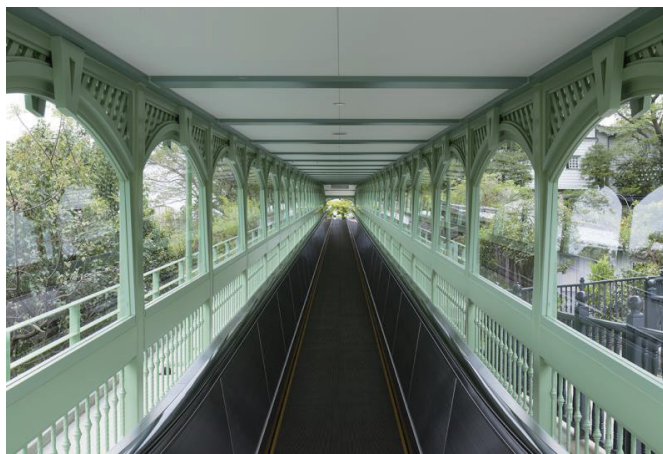


出典：グラバー園公式ホームページ
<http://www.glover-garden.jp/index.html>

クローズアップ



動く歩道乗降口（1号機）（左）と旧グラバー住宅（右）



動く歩道内（1号機）



動く歩道外観（1号機）

動く歩道仕様（計2台）

号機	形式	欄干意匠	速度 (m/min)	有効長 (m)	階高（揚程） (mm)	勾配 (度)	台数 (台)	メーカー	備考
1	S1000 形	ステンレスパネル	20, 25, 30	54.818	10164	12	1	三菱	屋外型 自動運転付
2	〃	〃	20, 25, 30	63.832	12080	12	1		